済生会は医療連携を通して、地域の診療所と共に皆様の健康をリレーします。

Baton

地域医療連携室だより

冬号
vol.63
平成25年1月1日発行

TOPICS

P2 【特集】「がん地域連携パス利用アンケート」結果報告

P4 登録医紹介（青木整形外科医院・笹出線 近江眼科 近江皮膚科）

P6 職場探訪（医療相談室・がん相談支援センター・患者の声（アドボカシー）相談室）

P7 新潟ユニゾンプラザにて「第2回 肝臓病セミナー」を開催

P8 インフォメーション

地域医療支援病院　臨床研修病院　地域がん診療連携拠点病院

済生会新潟第二病院・地域医療連携室

新潟市西区寺地280−7　TEL 025−233−6182　FAX 025−231−5763

http://www.ngt.saiseikai.or.jp

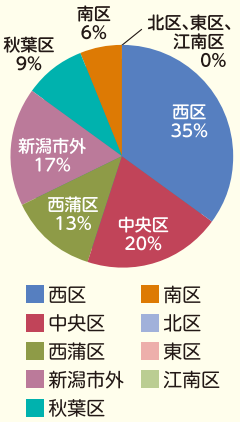
特集

「がん地域連携パス利用アンケート」結果報告

新潟県では、新潟県がん診療連携協議会主導で、2011年4月に5大がん地域連携パス（以下、がんパス）を新潟県統一パスとして稼働いたしました。稼働から約1年半が経過し、当院との間で実際に利用されている「かかりつけ医」の先生方へがんパス利用についてのアンケートを実施いたしました。そのアンケート結果と今後の課題をお伝えいたします。

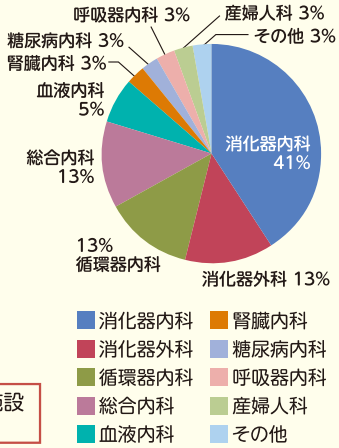
1. 普段の診療についてお聞かせください。

1）地域をお聞かせください。

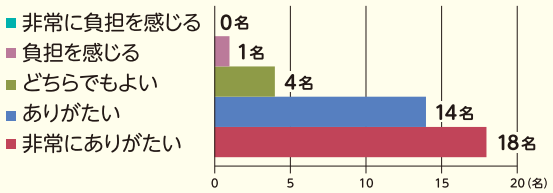


がんパス利用医療機関数=全46施設
回答=37施設

2）標榜されている診療科の中で、一番のご専門を一つお聞かせください。



3）病院から患者さんを紹介されることはいかがですか。



4）当院からの紹介について、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

- 事前連絡が助かる。
- システムがスムーズである。
- パスを適用させる患者とそうでない患者がいるのはなぜか。
- 病院受診の際に、他科の受診の必要性が出たときには（CT等病院でしかできない検査が必要）、復券で院内で回してほしい。
- 遠方の患者には逆紹介のメリットはある。
- 病院統一の情報提供書を作ってほしい。
- 気軽に相談に乗っていただけるとありがたい。
- 患者が連携の主旨を理解していない。
- 混雑時に来院されると、病院受診より待ち時間を要することがあるため、患者に負担になることもある。

5）病院医師とかかりつけ医の「2人主治医制」による診療体制には賛成ですか、反対ですか。その理由も教えて下さい。

①賛成	25名
②反対	1名
③どちらでもない	11名

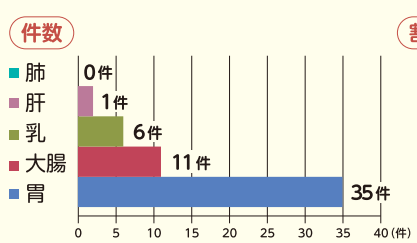
- 患者さんの安心感がある。
- 入院が必要な場合、症状が悪化した場合助かる。
- 病院医師には充分訴えられないことを、かかりつけ医が担当するのが適切。
- 専門外のことが多く助かる。
- 医師どうしの意見交換の場があると良い。
- 要介護患者は、かかりつけ医との連携が望ましい。
- 予定外の受診時、お願いしやすい。
- 病院、開業医それぞれの利点を生かすべきである。
- 患者がどちらを頼ればいいか混乱する。
- 主治医（主導）が、病院医師なのかかかりつけ医なのか、明確にしたほうがよい。
- 考えが違う場合がある。

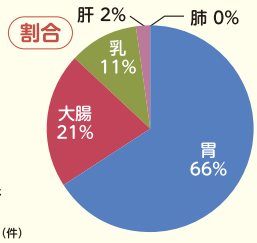
2. がん地域連携パスについてお伺いします。

1）「がん治療連携指導料」の施設基準の届出をしていますか。

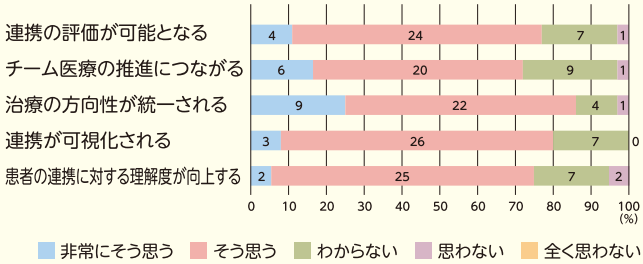
①している	25名
②していない	4名
③今後する予定または、したいと思っている	7名
④今後もするつもりはない	1名

2）現在利用しているがん地域連携パスの種類をお聞かせください。





3）がん地域連携パスを使用した病診連携を行なっている中で、下記のようなメリットをどのくらい感じていますか。



4）がん地域連携パスによる情報共有に負担を感じますか。

	届出あり（届出なし）	計
①非常に感じる	0（0）名	0名
②時々感じる	3（5）名	8名
③特に何も思わない	9（2）名	11名
④問題ない	11（3）名	14名
⑤情報共有しやすい	2（1）名	3名
未回答	1（0）名	1名

5）診療の度に、FAX（郵送）で情報提供することに負担を感じますか。

	届出あり（届出なし）	計
①非常に感じる	0（2）名	2名
②時々感じる	7（2）名	9名
③特に何も思わない	6（2）名	8名
④問題ない	9（2）名	11名
⑤情報共有しやすい	2（1）名	3名
未回答	1（3）名	4名

6）がん地域連携パスを使用することにより、当院の救急受け入れの体制は以前と比べてどう変化しましたか？

①良くなった	3名
②変化なし	18名
③悪くなった	0名
④わからない	16名

7）がん地域連携パスを利用した診療体制を行なうことを、これからも積極的に行ないたいと思いますか？

①非常に思う	4名
②思う	28名
③どちらでもない	3名
④思わない	2名
⑤全く思わない（他の病院に紹介したい）	0名

3. がん地域連携パスを使用している患者さんについてお伺いします。

1）病院では、がん地域連携パス使用患者さんに対し、継続診療スケジュールを説明しています。その際に、かかりつけ医で適宜検査があることを伝えていますが患者さんは抵抗なく継続診療を受けていますか?

① 検査・診察ともに行えている	36名
② 採血に抵抗がある	1名
③ 内視鏡検査に抵抗がある	0名
④ すべて抵抗がある	0名

2）患者さんは診察時にがん地域連携パスを先生に見せていますか。

① 毎回必ず見せている	27名
② 時々見せている	6名
③ 見せない	2名
未回答	2名

3）がん地域連携パスの患者さんの受診頻度について教えてください。

① 1ヶ月に1回来院している	60名
② 患者の都合で来院している	3名
③ 薬がなくなったときに来院している	2名
④ 調子が悪いときにだけ来院している	1名
⑤ その他	1名

4. がん地域連携パスに関してできるだけ具体的にご意見をご記入下さい。

- 退院後の受診は年に一回くらいでも十分ではないか。
- 医師によって、逆紹介を心掛けている医師とそうでない医師がいるというのは、システムとしては不備。
- 病院には入院を頑張ってほしい。
- カルテ以外の記載が少ないほうがよい。
- 使用者が少なく、まだ良い点はわからないが、悪くはない。
- 自己検診欄を記入してくる患者はほぼいない。
- パスがどの程度利用されているか知りたい。なぜ利用されないのか。
- 開業医がやるべきことを示されていると良い。
- 電子カルテなので、紙ベースは負担。
- 算定するのかしないのか、算定するにはどの程度の情報を送ればよいかわからない。
- 算定する患者、しない患者がいて混乱する。
- 患者のドロップアウトを防ぐ一役を担っている。
- 患者も前向きになれればよい。また、病院通院のストレスが減ればよい。
- 「薬がまだ残っていた。」などの理由で二週間から一か月予定の採血などが遅れる。評価をきちんとすべき。
- 検査結果をその都度連絡がほしい。
- 書き落としがないか、責任を感じる。
- パスでなく、かかりつけ医が主治医となって必要時病院を受診させたほうがよいのでは。
- 患者がパスを理解していない。
- （遠方）市外なので、あまり機会はないと思う。

以上、がん地域連携パスについて伺いましたが、最後にがん地域連携パス以外の地域連携パスについて、これからも積極的に使用したいと思われますか?

① 積極的に使用したいと思う	9名
② 使用したいと思う	15名
③ 疾患によって使いたいと思う	10名
④ 思わない	1名

改善に向けて

今回のアンケートでは、概ね、がんパスの運用については多くの前向きな意見が寄せられました。しかし、その中で以下4点の検討課題を挙げました。

❶ がんパスへの記載について。

➔ 診療録の他に記載しなければならない負担はあるものの、「必要な手間」と前向きな意見が多く得られました。現在、がんパスのWEB化を進めており、将来的には、診療録とがんパスが連動できる仕組みを提案し、医師の負担を減らすことが急務であります。

❷ 病院医師・かかりつけ医の「二人主治医制」について。

➔ 病院医師、かかりつけ医の役割分担が不明瞭であり、患者の混乱をも招いています。パス開始時に、具体的指示を出すことが重要となります（マニュアル作成を検討）。

❸ バリアンスの判断が不十分であること。

➔ 病状だけでバリアンスを判断するのではなく、患者の理解力やコンプライアンス、家族の協力等、多角的に患者を捉え、バリアンスの判断を行うことが必要であります。そのために、地域医療連携室スタッフと医師との情報交換を定期的に行うことが重要となります。

❹ 「がん治療連携指導料」算定の複雑さによる、混乱が生じていること。

➔ 現在、施設基準届出をしている医療機関には、算定できる患者とそうでない患者が混在しています。算定の可否、および算定するための手順を、患者を紹介する度に口頭と書面にてアナウンスすることといたしました。

がん診療連携拠点病院においては、患者への啓発も含め、運用面で大きな役割を担う地域医療連携室の体制強化と、各ステージでのかかりつけ医とのがん診療連携の強化が重要となります。

オープンシステム

青木整形外科医院
整形外科・リハビリテーション科

あおき　りょうすけ
青木 亮介 先生

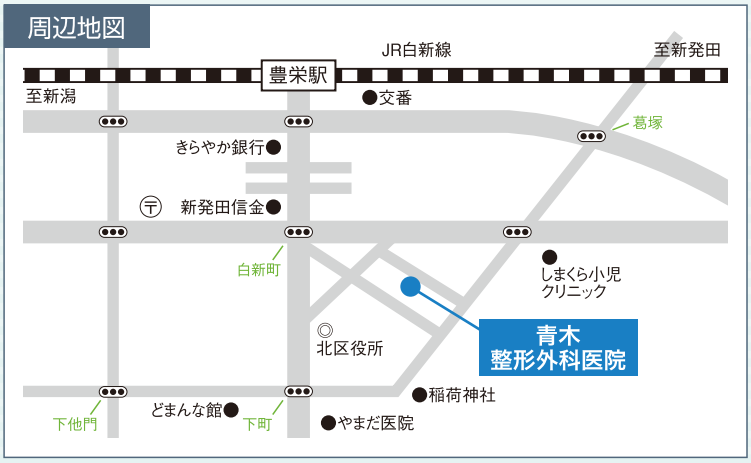
医師・医院PR

新潟市北区（旧豊栄市）で昭和54年に父が開業させていただきましたが、平成19年より父に代わり医院を継承してきました。医院建物の老朽化もあり平成21年に移転新築し現在に至っています。当院の治療方針としては地域住民の皆様に思いやりのある暖かで信頼される質の高い医療を提供していきたいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。

青木整形外科医院
整形外科・リハビリテーション科
〒950-3321
新潟市北区葛塚3188
☎025-386-9751

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
15:00～18:00	○	○	×	○	○	×

◎休診日／水・土曜午後、日曜・祝祭日



登録医訪問

笹出線 近江眼科 近江皮膚科
眼科

やまもと　すすむ
山本 晋 先生

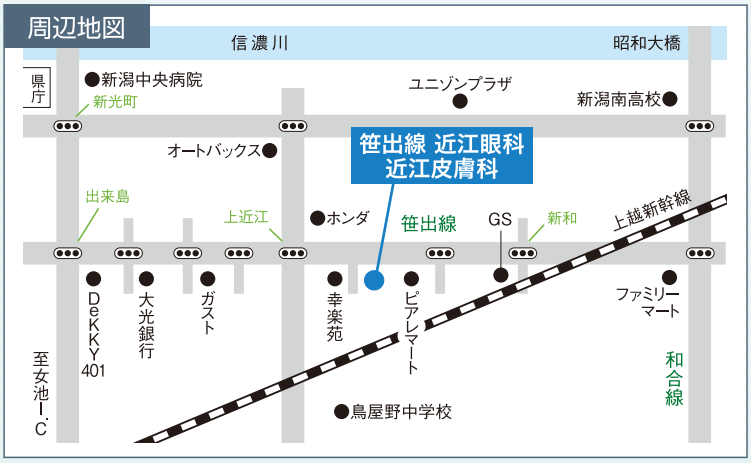
専門領域
網膜硝子体分野･眼科一般

医師･医院PR
診療は眼科一般に対応しており、近視、老眼、結膜炎、ドライアイ、白内障、緑内障、網膜症など眼疾患を診療しております。また日帰り手術にも力を入れており、主に白内障手術や硝子体手術を行っております。入院が必要な場合には済生会新潟第二病院のオープンシステムを利用させていただき、手術を執刀しております。済生会の先生方、スタッフの皆様にはいつも大変お世話になっております。今後も病診連携を通じて地域医療のお役にたてればと思っております。

笹出線 近江眼科 近江皮膚科
眼科
〒950-0973
新潟市中央区上近江2−1−33
☎025−280−1241

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30〜13:00	○	○	○	△※	○	○
15:00〜18:00	○	○	○	×	○	×

◎休診日／木・土曜午後、日曜祝祭日
※木曜午前は、手術日



当院の部署を 職場探訪 紹介します！

職場探訪は、院内報MINDに毎月掲載しているコーナーです。地域のみなさんにも紹介させていただきます。

医療相談室

医療相談室では、患者さんの病気の回復を妨げている色々な問題・悩みについて、社会福祉の立場から相談に応じています。さらに、済生会生活困窮者支援事業の推進、院内ボランティアに関するコーディネイト、医療福祉実習の受け入れ等の業務も行っています。

主な相談内容は、介護保険や身体障がい者手帳等の制度利用に関する相談、在宅退院や施設入所、職場復帰、回復期・療養型病院への転院に関する相談、医療費の支払いや年金等の経済的な問題に関する相談があり、この他にもDVや児童・高齢者虐待といった問題等、多岐に亘ります。

当院のような社会福祉法人の医療機関は、社会福祉法によりMSWの配置が義務づけられており、無料低額診療事業における医療上、生活上の相談に応じることになっています。近年の社会情勢から経済的に困窮している患者さんが増えており、医療費に関する相談も年々増加傾向にあります。

医療相談室のメンバーは中村部長（室長）、MSW（神田室長補佐、高橋、長谷川、瀬賀）、退院調整看護師・大湊師長の6人で構成されています。患者さん・家族の思いと板挟みになることが多々ありますが、「ありがとう」の一言をエネルギーにして、部署内で協力し合いながら日々の相談業務に取り組んでいます！これからも皆さんの力をお借りして、より良い支援に繋げていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

（医療相談室　MSW　高橋宏輔）

がん相談支援センター

がん相談支援センターは、医療福祉部に属し、中村部長をセンター長に、渋川係長、磯部の3人で構成しています。地域がん診療連携拠点病院の指定に伴い、“国立がんセンターの研修を修了した相談支援部門の設置”が指定要件とされたことから、平成22年度に開設されました。

がん相談支援センターは、がん専門の相談窓口です。相談内容は、病気や治療について、がん治療の医療費について、ホスピスについて、ウィッグ・かつらについて、在宅医療や福祉サービスについてなど広範囲に及び、がん患者を取り巻く様々な問題や悩みに対し、患者やご家族と共に解決を目指しています。医療相談室と異なる点は、当院へ受診している方に限らず、この地域に開放したがんの総合相談窓口となっていることです。時には、他院に受診中の方や当院を受診したいという方から電話やメールで相談を受けることもあります。

また、当センターはがん患者サロン（以下、サロン）のコーディネーターとして、患者同士のセルフヘルプグループ活動をバックアップしています。サロンはがん患者さんとその家族が、病気について悩みを話したり情報交換する場です。申し込み不要・入退室自由で、当院受診の有無に関わらず参加可能です。毎週金曜日の午後1時～3時半に開催しておりますので、対象の方がおりましたらぜひご紹介ください。

当センターは開設して3年目の新しい部署です。国立がんセンターと協働し、がん冊子を配布するなど、地域へのがんに関する広報活動も行っています。まだ聞き慣れない方もいるかと思いますが、これを機にぜひ覚えていただけると嬉しいです。

（がん相談支援センター　MSW　磯部千恵美）

患者の声相談室（アドボカシー）

患者の声相談室（アドボカシー）は、特定機能病院及び臨床研修病院に、患者のアドボカシー（権利擁護）相談窓口の設置が義務付けられたことから、平成19年に組織を改編し新設されました。

聞きなれない「アドボカシー」とは、「権利擁護」や「権利の代弁」を表す言葉です。

当室では、直接来室された方からのご意見や、院内に設置されているご意見箱に投函された要望等を関係部署に繋ぎ、迅速かつ適正な改善や解決に繋がるよう調整を行っています。

皆さまからのご意見は、プライバシーに配慮し、病院管理者やサービス向上委員会・患者支援委員会等に報告され、病院サービスや医療安全の向上に活かされます。また、投書の内容については院内に掲示し、当院利用者の皆さまに情報を公開しています。

室員全員“寄せられたご意見は病院運営の貴重な資源であると考え、患者さんの声に傾聴する”を心がけ、日々の業務を行っております。これを機会に、このような部署があることを覚えていただけるとありがたいです。

＜構成メンバー＞ 室長：中村医療福祉部長　MSW：清水・月岡　事務員：杉浦

（患者の声相談室　MSW　清水智之）

新潟ユニゾンプラザにて「第2回 肝臓病セミナー」を開催

消化器内科　石川 達　医師

薬剤師　鈴木 光幸

2012年11月10日（土）第２回肝臓病セミナーを開催しました。会場である新潟ユニゾンプラザには237名の多くの方に参加していただきました。セミナーでは、「あなたの肝臓は大丈夫？知って得する肝臓病。日常生活の常識・非常識すべて教えます」をテーマに、吉田院長の挨拶の後、医師・薬剤師・栄養士・看護師より熱い講義が繰り広げられ、来場者皆さんも熱心に傾聴してくださいました。

また今回は、新潟県からの依頼で「肝炎ウイルス検査」も実施しました。肝炎ウイルス検査を受けたことがない方を対象として、80名以上の方が血液検査を受けられました。あなたは医療機関で「肝炎ウイルス検査」が無料で検査できることを知っていますか？もしあなたも、あなたの身近な人もまだ検査を受けたことがないと言うなら、是非一度受けてみて下さい。肝臓癌は慢性肝疾患を背景に発癌すると言われており、唯一予防できる癌でもあります。ひとりでも多くの慢性肝疾患の方が早期に治療ができることを期待しています。

次回は３月に院内で肝臓病教室を予定しております。大勢の方々の参加をおまちしています。尚、今回の肝臓病セミナー開催にあたり、地域医療連携室の方をはじめ、大変多くの方々に協力していただきましたことに深く感謝申しあげます。

（外来Ｂブロック　看護師　小山　富士子）

新規登録医紹介

医　院　名	診療標榜科目	住　　所	登録医名
青山内科クリニック	内　科	新潟市西区青山4−1−28	小澤　武文
五十嵐内科胃腸科医院	内　科	新潟市江南区酒屋町821−29	五十嵐　一雅
小柳内科医院	内　科	新潟市西区東青山1−8−5	小柳　明久
佐藤医院	内　科	新潟市江南区割野666	佐藤　允副

※H24年12月25日現在、登録医総数は396人です。

第7回医療連携総会／がん診療セミナー2013開催のお知らせ

●平成25年2月23日（土）15:00～（予定）　●グランドホテル

詳細は追ってご案内申し上げます。

臨床検討会開催のお知らせ

	第177回	第178回
日　時	平成25年2月26日（火）19:00～	平成25年3月26日（火）19:00～
担　当	整形外科	血液内科
会　場	済生会新潟第二病院10F会議室	済生会新潟第二病院10F会議室

連携医療機関のみなさま、表紙を飾ってみませんか？

引き続き、
表紙を飾っていただける写真を募集しています。
ご自慢の写真はありませんか？
お問い合わせは、地域医療連携室までお願い致します。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。正月は、日本の年中行事の中で最も古くから存在するもの。時代が変わり簡素化しつつも、正月行事や風習は受け継がれていると感じます。さて、2013年は巳年。この「巳」という字は、胎児の形を表した象形文字で、蛇が冬眠から覚めて地上にはい出す姿を表しているとも言われ、「起こる・始まる」などの意味があるそうです。殻を破って心機一転、皆さんも何か始めてみませんか？

今年もどうぞ宜しくお願いいたします。　（大澤　希美代）